

# オオサンショウウオ

*Andrias japonicus* (Temminck)  
有尾目・オオサンショウウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

## 選定理由

県内生息確認地の在来、移入種を含めて生息及び繁殖環境が河川改修やゲリラ豪雨による環境悪化で、ここ数十年以来生息確認情報がない。

## 種の特徴

世界最大の両生類。特別天然記念物。全長は平均 65 cm 程度で時に 1m を越える。扁平な体で、要部は大きく四肢は短い。暗褐色で黒斑がある。河川の源流域の限定された環境に生息する。

## 分 布

岐阜県以西の本州、四国及び九州の一部に生息。県内では過去に九頭竜川の源流域、嶺南地域の耳川、南川源流域で成体生息確認の記録があるが移入個体の可能性が高い。

## 生息を脅かす要因

河川改修、移動障害の堰、集中豪雨等で成育環境や隠れ場所の悪化、餌の多様性の劣化により存続が可能ではない。

参考文献 小林 (1984)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、長谷川 (2001)、川上 (2008)、生駒 (1973)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		●															

両生類

# アベサンショウウオ

*Hynobius abei* Sato  
有尾目・サンショウウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

## 選定理由

種の保存法記載種。既知生息域内の生息地や繁殖環境が知らずに、森林開発行為、圃場整備、管理放棄、シカ、イノシシの獣害により生息環境は極めて悪化している。

## 種の特徴

体長 96 ~ 108 mm、背面は暗褐色、腹面は淡黄色で若い個体は青白色の小点を密布する。人里近くの低地二次林、混交樹林に生息し、降雪期に湧水のある湿地、溝の止水で繁殖する。繁殖期に特に雄の尾は著しく側編する。

## 分 布

石川県、本県、京都府、兵庫県の人里近くの低地二次林に多く、本県嶺南東部や兵庫県では山地の混交林に孤立して生息する。日本固有種。

## 生息を脅かす要因

農道や林道建設、不法投棄、生活改善土地開発、獣害等による繁殖湿地と生息環境の劣化が大きな要因である。

参考文献 福井県編 (2002)、長谷川 (2006)、長谷川 (2010)、長谷川 (2011)、宮崎ら (2011)、長谷川 (2013)、環境省編 (2014)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○			○					○	○				

# ナゴヤダルマガエル

*Rana porosa brevipoda* Ito  
無尾目・アカガエル科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

## 選定理由

2 地点は消滅。分布域が狭められ、残存生息域内の生息地や繁殖環境が開発行為、圃場整備によるコンクリート化、稲作方法の変化により極めて悪化している。トノサマガエルとの遺伝子交雑も苦慮する。

## 種の特徴

ダルマガエルはナゴヤダルマガエルに統一される。県内には、名古屋種族と岡山種族が生息する。体長 40 ~ 60 mm、後肢が短く、背面は孤立した黒褐色斑紋で、背中線がない個体が多い。腹面は暗色の雲状斑紋がある。水田、側溝、湿地の水辺から殆ど離れず、6 月頃、浅い止水で繁殖する。

## 分 布

本州の中部、東海、近畿、山陽地方と四国地方の一部に分布する。県内では、嶺南地方に局所的な分布で、個体数も極めて減少している。日本固有種。

## 生息を脅かす要因

圃場整備によるコンクリート化や稲作栽培技術の変化、道路建設、土地開発等による生息環境の破壊・悪化や水質汚濁、トノサマガエルとの交雑により絶滅の危機が増大。繁殖地と生息地の湿地等水環境の保全が最も重要である。

参考文献 長谷川 (2002)、前田・松井 (1989)、富永 (1990)、福井県編 (2002)、京都府 (2002)、環境省編 (2014)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○												